一身田の新聞
発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集長
岡本博和

明けましておめでとうございます

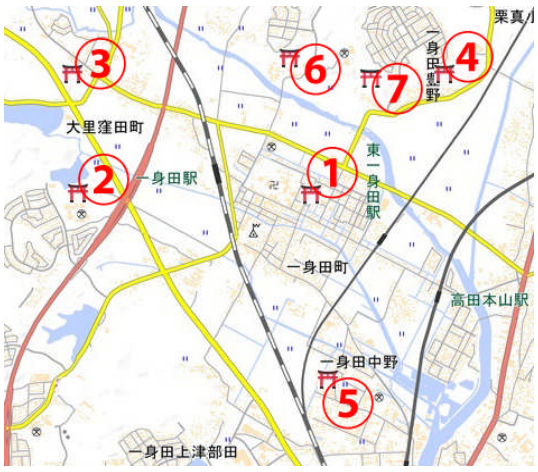
新年の初詣では地元の氏神さんへ
寄稿　高田本山宗務総長　増田修誠氏より
2018年一身田の10大ニュース

初詣では地元の氏神さんへ

一身田地区　七社の神社を紹介

平成31年が明けた。あと4か月もすれば「平成」は終わりを告げ、新元号となる。今年の干支「亥」は、猪突猛進のイメージから勇気と冒険の年と云われている。新しい年を迎えるにあたって日本の伝統文化の一端を体感することもいいことである。そこで、一身田地区には七社の神社があり、それぞれに歴史があり、伝統があり、文化があり、それらが脈々と受け継がれている。新しい年の始まりに地元の神社を紹介する。

一身田地区の神社は、一身田の一御田神社、大古曽・平野・上津部田の大乃己所神社、中野の大乃己所神社、桜町の石積神社、西豊野の宇氣比神社・東豊野の八柱神社、八幡神社がある。それぞれ分祀や復祀を繰り返しながら現在に至っている。



一身田地区の神社の場所
人里離れた場所や細くて分かりにくい道、急な階段を登らなければならない神社もある。

①一御田神社

『ケヤキのご神木と御田植祭が残る農耕と水の神をまつる神社』

本殿西隣に欅の古木があり、社殿が建てられる前は御神木として信仰の対象であった。社殿の棟札に嘉吉元年（1441年）と記されており、これ以前の創立であると思われる。また、一身田地区は農業集落であったことから往古より続く当神社の「御田植祭」は現在も毎年五月に行われている。御田植歌の歌詞からも伊勢神宮と深い関係があったことを伺い知ることができる。

現在は拝殿前に砂利で田の形を造り、稚子（女児）が松葉を苗に見立てて田植えを行い、地域の豊作と平和を祈願している。現本殿は遷宮後、造営を行った。

一御田神社住所　一身田町679番地

②大乃己所神社

『鬼から奪った妻と三輪明神の伝説が残る神社』

当神社には、伊勢の国庵芸郡の猟人が山で鬼を退治し、その鬼が捕まえていた女人を妻とし、児を授かったが、母子ともに行方不明になった。その後、猟人が大和の国三輪社に詣でて再会を祈願したところ神殿が開き、母子が現れ猟人ともども神になった。その神祭を庵芸郡の者が行うこととなって、三輪神社を奉った

③石積神社

『江戸時代初期の貴重な獅子頭が残る神社』

当神社には、貴重な民俗資料として津市から指定を受けた「木造塗漆獅子頭」がある。万治三年（一六六〇年）と墨で書かれた銘が残っており、江戸時代初期に作

当神社では、大晦日から元旦にかけて松明を焚き絵馬ちょうちんで歓待する。お札やおみくじも販売している。

高田本山の除夜の鐘を突いた後、東へ50mのところにある一御田神社にお詣りしよう！。

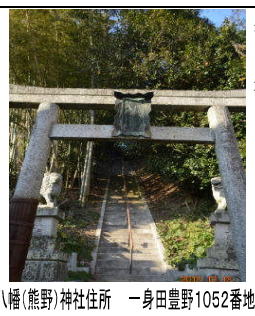
石積神社住所　大里窪田町1501番地

大乃己所神社住所　一身田大古曽1739番地

④八幡（熊野）神社

『百二十段の石段がある神社』

当神社は、昭和26年に現在地に大乃己曽神社（大古曽）から分離し、現在に至っている。東豊野集落から約百二十段の石段を登った小高い山の中に本殿、拝殿がある。この社の近くには、「山の神」や「筆の神」といった小さな祠（ほこら）もあり、地域の人々がいろいろな神を崇拝していたことがわかり、今も伝統的な行事


八幡(熊野)神社住所　一身田豊野1052番地

を引き継いでいる。1月1日には元旦歳を執り行う。

⑤大乃己所神社

『中野獅子舞で有名な神社』

当神社は大古曽にある大乃己曽神社から昭和26年に複社し、七社大明神と称えられ、見初大明神、八王子、稲荷、八幡、春日、神明、大梵天王七座人を奉祀している。

また、江戸時代中期の銘が残る獅子頭は見初大明神のご神体とされ、現在も3年に一度旧正月に舞っている。これが中野獅子舞で津市無形文化財に指定されている。この獅子舞は、の世代へ繋がっていくよう「一身田寺内町まつり」でも披露している。

また、当神社では、大晦日の午後7時から境内のライトアップ、午後9時より年越しそばを振る舞い、かがり火を焚いて新年を迎える年越しイベントも行っている。

大乃己所神社住所　一身田中野694番地

⑥宇氣比神社

宇氣比神社住所　一身田西豊野2101－2番地

⑦八柱神社

八柱神社住所　一身田豊野1277番地

という説話が残っており、これが当神社の始まりと伝えられている。また、平成20年5月に現在の拝殿の竣工式が行われた。

られたものであることがわかる。

現在、窪田の獅子舞として三年に一度、地域住民によって正月に踊り継がれている。また、当神社は、この地方に暴風雨が頻発し人民が災害に苦しんだ際に、「神霊を鈴鹿の山続

寄稿

新しい年を迎えるにあたって

専修寺宗務総長　増田修誠

謹んで新年のお慶び申し上げます。

宗務総長就任から早や六ヶ月が過ぎましたが、その間、多くの皆様の温かいお力添えを賜り、宗務に専念させていただいておりますことに心より感謝申し上げます。

さて、私は津市と友好都市提携を結んでいます北海道上富良野町の真宗高田派専誠寺五代目の住職を務めております。

当寺の開基をたどりますと、同朋相慰め、同朋相励まし合いながら、苦難と苦境の中、高田の法燈を大切に受け継いできた当寺の歩みを知ることができます。

百二十年前（明治30年）同じ故郷をもち信仰を共にする仲間「三重団体」が開拓苦難の中に心の拠り所を求めて草小屋を築き、そこで共に故郷を偲んでおりました。そして、これが縁となって昼間は鍬を打ち振う一方で、夜はカンテラの灯の下に法を説き、冬は子弟を集めて読み書きを教えました。こうした開拓の地に蒔かれた一粒の種が、やがて、説教所から「寺院」へ、寺子屋から「学校教育」へというように実を結んでいきました。

また、檀家古老からは、昔、故郷三重県のご本山のお七夜参詣に参らせていただくことが一生の願いであり、家族親族を代表して水盃を交わし、汽車と船を乗り継いで五日間かけて本山へ到着したこと、そして、三重の親族や友人と共に参詣をし、夜通し話は尽きぬ中、お礼を告げ北海道へ戻ったこと、それは今でも一生忘れることのない「ありがたいお七夜」参りであったと何度も聞かされました。

ご本山に着任させていただいて四ヶ月経った秋晴の十月二十日、寺内町清掃に参加させていただきました。早朝より

2面につづく

みんなの便り

1面より

多くの一身田地区の皆さん、一身田中学校の多くの生徒の皆さんが参加されていました。一身田地区代表の方のご挨拶に続いて、中学生代表の生徒さんが「国宝の高田本山に多くの方が来られます。みんなで力を合わせ、きれいに清掃しましょう。」と挨拶をしてくれました。正に親から子へ、そして、孫へと代々大切に受け継がれてきたご本山を支えてくださる地域の皆さんの深い思いと絆を感じ、感謝の心でいっぱいになりました。生徒の皆さんが楽しく会話をしながらご本山境内を清掃する姿こそ、今の社会でなくしてはならない「思う願うの心」です。

希望に満ちた一歩を歩み始める新春、一身田の皆さんと共にご縁を通して共に手を合わせ、心を合わせ、今一度お蔭さまと深く味わっていきたいと思います。そして、『また来たい、お参りしたい高田本山』として、おもてなしの心、合掌する姿を大切にするご本山でありたいと願っております。

一小「ありがとう集会」を開催

一身田小学校では、日頃からお世話になっている地域のみなさまを学校にお招きして、代表の児童が感謝の気持ちをお伝えするとともに、お礼の手紙をお渡しする「ありがとう集会」を11月27日(火)に開催しました。

学校にお招きしたのは、一身田地区民生委員・児童委員さん、一身田フラワーボランティアさん、一身田寺内町ほっとガイドさん、安全パトロールボランティアさん、校舎内の環境整備をしていただいている内田さん、図書館ボランティアさん、ベルマークボランティアさん、クラブ(生け花、地域探検、折り紙、卓球)外部指導者の皆様で、当日は約30名の方にご出席いただきました。

最後に児童全員で感謝の気持ちを込めて、「ありがとうの輪」を合唱しました。

子どもたちにとっては、自分たちの学校生活が、たくさんの皆さんのご支援によって成り立っていることを感じ取る、有意義な集会となりました。

校長　伊庭　正彦

「来て　観て　聴いて」　友の作

文化祭が無事終了しました

今年は新しい公民館の建替工事が進む中、10月27日に学習発表会を開催しました。

例年より規模を縮小しての開催でしたが、365点という例年よりも多い出展となった展示会、会場がいっぱいになるくらいの来場者があった発表会、追加のお菓子を急遽購入という嬉しいハプニングがあったお茶会など、開催日が一日少なくなったにもかかわらず464人の来場者があり、どの会場も盛会でした。本当に多くの方にお越しいただき、ありがとうございました。

また、来場者の方からいずれも見応えのある内容であったと多くの称賛もいただくことができました。

作品の搬入搬出を始め、工事による様々な制約の中での文化祭でしたが、講座生の皆さんの一丸となった取組や日々のご努力、そして地域の皆様の温かいご協力があってこその盛会と思います。心より感謝申し上げます。

来年度は新しい公民館での開催となります。一身田地区にある公民館として、地域の皆さんとともにさらに充実していく新たなスタートにしていきたいと願っています。

一身田公民館長　米川　武宏

編集委員が選んだ　一身田地区の10大ニュース

平成30年、悲喜こもごも、いろいろなコトがあった。なかでも自然災害は記憶に残る出来事で、一身田でも台風21号、24号により倒木や停電など日常生活に大きな影響を及ぼした。

一身田の新聞編集委員細川隆、中尾清章、米川武宏、岡本博和)による一身田地区の10大ニュースを羅列した。

①公民館の新築工事始まる。
②福祉の輪　あちこちで立ち上がる。
③一身田商工会の国宝プロジェクト、活性化の起爆剤に。
④一小校庭の砂塵対策まだまだ。
⑤地域懇談会が開催された。「見える化」「スピードアップ」に関心。
⑥獣害、鳥害問題が深刻。鳥害はひとまず安心
⑦寺内町まつり、七夕まつりが盛況
⑧敬老のつどいで元気なお年寄りを表彰
⑨防災対策、研修や訓練で「その日」に備える。
⑩高田本山の御影堂と如来堂の国宝化で来町者3倍以上に

お礼　ご支援いただきました皆様へ

この度は一身田しあわせ和婚にて無事に式を終えることができました。
多くのかたに祝福をいただけたことを大変光栄に思っております。
ご支援いただきましたことを深く感謝しています。　2018年11月18日 松村亮・真田愛菜

5月7日　高田会館大ホールで

一身田商工振興会は国宝プロジェクト企画を立ち上げた。シンポジウムや国宝記念メダルの発行、辛坊治郎氏の講演、浅田政志氏の商店主の写真展などの事業を行った。

福祉サロン　あちこちで

桜町、豊野、大古曽、平野、上津部田、志登茂地区で開催されている。有志による「みんなの食堂」も開設され、カレー、牛丼、親子丼などが提供されている。

一身田公民館完成予想図

今年度末には完成し、翌年度4月から使用可能となる。
エレベーターや多目的トイレも新しく設置される。駐車場は平成32年度に整備される。

平成30年10月1日号「広報つ!」より

11月18日開催の寺内町まつり

一身田は祭りや催事が多い。高田本山の行事や社協主催の行事、更には、町民手作りの祭り「寺内町まつり」や「七夕まつり」は年ごとに盛大になっている。

7月26日　岐阜県防災センターで研修会

7月26日岐阜県防災センターを視察した。
地震体験車や火災体験などを研修した。
「火災で怖いのは炎より煙」と教わった。

7月19日　一小で地域懇談会を開催

地域住民と市長が直接対談する地域懇談会。一小の砂塵問題
同校のグラウンドの芝生化、獣害・鳥害対策、寺内町の整備、街の活性化支援などの要望や提言が発表された。